春あいさつ

葉山町長
森　英二

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新春を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

平成20年1月の就任から早くも4年が経過しようとしております。100年に一度、と言われる平成20年秋のサブプライムローン問題やリーマンブラザーズの破綻に端を発した世界的な経済・金融危機からスタートしました。そして昨年3月11日の東日本大震災と原発の事故、秋にはギリシャ発ヨーロッパEU通貨危機が世界を巻き込み、わが国にも多大な影響を与えております。その様な暗い出来事の続くなか、11月には国民が世界一幸せを感じている国、ブータンから若い国王夫妻が新婚旅行を兼ねて来日され、東日本の被災地を見舞われるなど、各地におけるその言動で「本当の幸せ」を共感させてくださいました。

さて、長引く経済の低迷は町財政にも大きく影響しております。まず、町の歳入の根幹をなす町税は4年間で約5億8千万円の減収となりました。私は、財政基盤を中・長期的視点で健全で安定的なものに建て直すことを経営指針の中心に据えました。そこでまず平成4年2月から始まった公共下水道事業に伴う下水道事業債（借金）残高が、平成19年度末で100億円超に達しているのを計画的に減らそうと考え、下水道事業のペースを従来よりも落とし4年間で10億2千万円減らす見込みです。同時に一般会計に係る借金残高を約2億3千万円減らし、合わせて約12億5千万円減らすこととなります。財政調整基金は約1億5千万円積み増すことができました。その結果、平成19年度から公表されるようになった自治体の負債の支払い能力を示す将来負担比率が、平成21年度の実績で県内各自治体でもトップクラスの余裕度と評価を受けました。（『朝日新聞』平成23年3月4日あなたの街の財政状況は）。次の世代に過大な借金を残さぬよう、これからも町の基本指針であるべきだと思っております。

一昨年の11月25日以来、使用を停止していたごみ焼却炉は停止を続け、いずれ廃炉とする方針を昨年の11月29日に議会で表明いたしました。近隣の自治会などから安全性の観点で廃炉の要望が出されており、経済性・効率性などを合わせて総合的に判断いたしました。当面は現状の外部委託による焼却を続けますが、将来的には技術革新の動向に注視しながら資源循環型の処理体制の確立を検討する必要があると思っております。今後もごみの資源化・減量化は一層の推進が必要です。皆様のご協力をお願いいたします。

次に、公共下水道事業区域の全体計画を見直し縮小しましたが、平成24年度から5か年の計画年度中にも更なる検討が必要だと思っております。

最後に、東日本大震災以後の防災・減災意識の高まりを受け、町内全域へのアクセスを考慮した最適の場所への消防支署の新設を、財政面と署員採用計画を合わせ将来に向けて計画する必要があると考えております。

さて、今年は昇運の年と言われる辰（龍）年、皆様のご健勝とブータン国民に劣らぬ最大の幸福の実現をご祈念申し上げます。

賀 年頭のご

葉山町議会議長
畑中　由喜子

新年のごあいさつ

平成24年の初春を迎えるにあたり、ごあいさつを申しあげます。

昨年は、東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大津波、原子力発電所事故、大雨による土砂崩れ、洪水などの自然災害と我が国にとって非常に大きな困難に直面した年でありました。

災害によって犠牲となられた多くの方々のご冥福をお祈りすると共に、被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げ、被災地の一刻も早い復興をお祈りいたします。

私ども葉山町議会は、昨年4月が4年ごとの改選の年にあたり、これまでの17人による議会構成から3人減とし、選挙の結果、14人の議員が選ばれ、新たな議会活動をスタートいたしました。5月の臨時議会で私は第43代議長として選任され、議会を代表するという重責を担わせていただくことになりました。

地方分権が進むなか、二元代表制という地方制度の一方を担う議会の役割はさらに重いものとなっていきます。議会は町長と相互のけん制と調和によって公正な行政を確保するという、チェック・アンド・バランスの機能をいかして、住民のための行政を推進する役割を負っています。改選前の議会で制定した葉山町議会基本条例にのっとり、その役割を実践するとともに、今議会では、活発な議論を行うように議員間の自由討議の仕組みづくりをしております。より活発な議論の展開のため、質問の一問一答方式を取り入れ、本会議場の形を対面式とする、災害時の議会の役割の規程づくりなど、今後もさらなる議会改革に取り組んでいきます。より開かれた議会で、町政への関心をもっていただき、町全体の活性化が図れればと思います。

世界的な経済不況や円高などによって、我が国の経済は低迷が続いています。そうした状況のなか、葉山町には現在、ごみ問題をはじめ、多額な経費を要する下水道問題、子育て世代や高齢者など誰もが安心して暮らせるまちづくり、地域社会の再生に加え、安全のまちづくり、そして、まちづくりの基盤となる財政問題など多くの行政課題があります。議会はこれらの課題の解決に向けて、行政との緊張関係を保ちつつ、力を尽くしてまいります。

また、先の東日本大震災の教訓から、三浦半島地域で高まっているという断層活動、直下型地震の可能性など、防ぐことのできない自然災害への備えとして、少しでも被害を小さく抑える減災への取り組みが急務です。地域ごとの綿密な取り組みが必要と思われます。

議会でも災害時の議会の役割や対応の仕組みづくりに取り組んでいますが、備えあれば憂いなしのたとえのとおり、地域の安全のためには多くの方々の参加による対策が必要なのは言うまでもありません。

議会として、葉山町が誇るべき歴史や伝統、美しい自然や景観を大切にし、子どもたちやそのまた子どもたちの世代に引き継ぐとともに、町のさらなる発展、住民福祉の向上のために寄与できるよう努めてまいります。

どうか、本年も、なお一層のご支援とご鞭撻（べんたつ）を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、議会を代表いたしまして、皆さま方のますますのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。

「あいさつ運動」ご協力ありがとうございます

葉山町青少年問題協議会では、「あいさつ運動」の推進と継続が青少年にとって非常に大切なことであるという認識のもとにこの運動を続けています。

町内小・中学校などの協力を得て、今年度は1月を「あいさつ運動」の強調月間として取り組みます。学校では「あいさつ標語」入選者の表彰をし、「あいさつ」の大切さについて子どもたちに話してもらいます。また、町民の皆さんには広報はやまや町広報板等を通してご協力をお願いします。

すでに「あいさつ」を意識し実践している皆さんには大変感謝しています。

「あいさつ」は、コミュニケーションの第一歩、人と人とを結ぶ架け橋です。また、「あいさつ」・「声がけ」をすることで犯罪者は顔を知られることを恐れるため、防犯上においても効果があると言われています。

子どもたちは見知らぬ人からの声がけには注意するように言われていたり、恥ずかしさで声をかけづらかったりするかもしれませんが、あいさつひとつで明るく・さわやかな気持ちになるのは誰もが経験したことがあると思います。

地域においてのつながりを深めると共に、子どもたちが明るく健やかに育っていくことを願い、今以上に「あいさつの飛びかう町、葉山」とするために、町民の皆さんのご協力をお願いします。

「あいさつ運動」の一環として、毎年「あいさつ標語」を募集しています。今年度の標語のテーマは「思いやり・気づかい」でした。たくさんの温かみのある標語をご応募いただきどうもありがとうございました。

計144人192作品の応募があり、以下の作品が優秀賞に選ばれましたので紹介します。（敬称略）

問合せ 生涯学習課　☎内線7232

【優秀賞】

○しんこきゅう　てれずにあいさつ　きもちいい
長澤　ひまり（葉山小1年）

○ひとこえで　やさしい心を　とどけよう
小﨑　瑞穂（上山口小6年）

○ありがとう　こだまみたいに　ありがとう
山口　ほの香（長柄小4年）

○いじめはNo!!　みてみぬふりも　いけないよ
下川　梨花（一色小4年）

○言ってみよう　友達・家族　町の人
船山　凌（葉山中3年）

○思いやり　小さな気遣い　大きな一歩
緒方　星弥（南郷中3年）

【特別賞】

○あいさつは　受け手気づかう　思いやり
田中　英雄（一般）

○うれしいな　心のこもった「ありがとう」
佐藤　珠水（葉山小4年）

○思いやり　見えないけれど　ここにある
沼田　隼青（葉山中2年）

防災とボランティア週間

平成7年1月17日に兵庫県南部地震が発生し、この地震に起因した災害が「阪神・淡路大震災」と呼称されることとなりました。この災害では、ボランティアによる救援活動が成果をあげたため、テレビや新聞等で大きく取り上げられました。これを契機として、毎年1月17日は「防災とボランティアの日」、毎年1月15日から21日までは、「防災とボランティア週間」と定められています。

近年では、災害時には3つの「助」が必要とされています。「自助」、「共助」、「公助」です。

「自助」は、自分の身の安全を最優先するという考え方です。まずは、自身の安全を確保できなければ、誰も助けることができないからです。

「共助」は、ボランティアの精神にも通じるものであり、地域一帯でお互いに助け合うという考え方です。

「公助」は行政による「助」です。

「自助」と「共助」は特に重要です。大規模災害発生後には、「公助」が機能するまでに3日間程度を要するとされているためです。その理由の1つは、行政職員も被災者となってしまうからです。

皆さん一人ひとりが、「自分や家族等の安全を確保した後は、地域一帯で助け合う」という精神を持っている地域は減災できるはずです。

町では、災害時に自力で避難することが困難な人を支援することを目的として、そのような人の名簿の作成に向けて取り組んでいます。

家族の安否確認の方法

災害時には電話が不通となる場合が多くあります。

NTTによる「災害用伝言ダイヤル171」、その他各携帯電話会社による「災害用伝言板」の利用方法を学びましょう。正月三が日、「防災とボランティア週間」と毎月1日・15日等は、これらが体験できる日とされています。

災害時にどのように連絡を取り合うか家族で決めておきましょう。

問合せ　総務課　☎内線561

平成23年度　葉山町非核平和標語コンクール入賞作品

平和事業の推進のため、町内在住・在学の中学生を対象に標語を募集したところ、26人から44点の作品の応募がありました。

11月25日に開催された選考委員会で厳正に審査した結果、次の生徒の作品が選ばれました。（敬称略、学校・学年については、応募時の平成23年9月のものです）

金賞

核のない　平和な地球を　次世代へ
伴　あかね（葉山中2年）

銀賞

人類の　未来におとすな　核の影
鈴木　真優子（南郷中2年）

銅賞

核兵器　なくして守ろう　世界につながる青い空
峰松　遥風（南郷中3年）

佳作

葉山から　みんなでたたもう　核のカサ
高橋　明里（葉山中1年）

核よりも　愛で満たそう　この地球
越智　桃子（葉山中3年）

もうたくさん　のどかな町に　放射能
杉本　美穂子（南郷中3年）

地球上　願うは　国境なき平和
深田　春佳（葉山中3年）

平和の灯　ともしてゆこう　葉山から
相澤　佑亮（葉山中1年）

問合せ　企画調整課　☎内線333